

第9回 多摩区社会福祉大会

日時

平成29年2月15日[水]
午後1時15分～午後3時45分

※開場12時30分

※手話通訳の必要な方、車イスご利用の方は予めお申し出ください

入場
無料

先着

900名

会場

多摩市民館 2階大ホール

折り梅

あるがままでいいと受けとめてもらえなければ
人はみな生きていけない

2002年カナダ・モントリオール国際映画祭参加
2002年東京国際女性映画祭参加
2003年香港国際映画祭参加

oriune
『ユキエ』の
松井久子監督作品
[文部科学省特別選定
厚生労働省推薦]



第1部 記念式典

地域活動貢献者・
多額寄付者への
感謝状の贈呈

第2部 記念映画上映

折り梅

— 日本語字幕付き —

※第2部からの入場はできません

上映作品について

同居の母がアルツハイマー型認知症となり、家族は対応に戸惑い崩壊の危機に直面しながらも、いつしか現実と向き合う中で様々な葛藤を経て再生していく家族の姿を描いた感動作。

お問合せ

社会福祉
法人

川崎市多摩区社会福祉協議会

電話 044-935-5500 Fax 044-911-8119



記念映画上映「折り梅」

※第2部(記念映画上映)からの入場はご遠慮ください

あらすじ



名古屋郊外のベッドタウン、豊明市。サラリーマンの夫・裕三とパート勤めの主婦・巴、そして中学生と小学生の2人の子供。この家族4人の生活に、ある日、裕三の母・政子が加わることになる。しかし、同居して間もなく政子の変調をきたし始める。毎朝ぞうきんを縫っては巴に渡し、突然激昂しては巴を罵る。診断はアルツハイマー型認知症。パートを続けたい巴はヘルパーを雇うがうまくいかず、理解のない夫との関係も険悪となっていく。一方、政子のほうも認知症という思いもよらぬ事態に言い知れぬ恐怖とやり場のない苛立ちが募っていく……。

見どころ

本大会で上映する「折り梅」は、2002年3月に劇場公開されました。原作は、小菅もと子「忘れても、しあわせ」日本評論社刊。

同居する夫の母がアルツハイマー型認知症となり、その対応に戸惑い、一度は家族崩壊の危機に直面しながらも、いつしか現実と向き合う中でさまざまな葛藤を経て再生していく家族の姿を描いた感動作です。実話を基に「ユキエ」の松井久子監督が映画化。主演は「愛を乞うひと」の原田美枝子。認知症の義母役をベテラン吉行和子が熟演しています。



小菅もと子 著「忘れても、しあわせ」(日本評論社刊)

毎日映画コンクール田中絹代賞	吉行 和子
全国映画鑑賞団体連絡会議女優賞	原田 美枝子
全国映画鑑賞団体連絡会議特別賞	松井 久子



認知症

認知症とは、正常に働いていた脳の機能が低下し、記憶や思考への影響がみられる病気です。認知症の中でいちばん多いアルツハイマー型認知症は、男性より女性に多くみられ、脳の機能の一部が萎縮していきます。血管性認知症は比較的男性に多くみられ、全体的な記憶障害ではなく、一部の記憶は保たれている「まだら認知症」が特徴です。症状は段階的に、アルツハイマー型よりも早く進むことがあります。(厚生労働省)



会場 ◀◀◀

多摩市民館